



朝日がん大賞・日本対がん協会賞の受賞者決まる

▽公益財団法人日本対がん協会（垣添忠生会長）

がん征圧活動に功績のあった方々に贈る「朝日がん大賞」と「日本対がん協会賞（個人、団体）」の今年度の受賞者が決まりましたのでお知らせいたします。各賞とも「がん征圧月間（9月）」の始まる9月1日付の発表となります。9月9日に京都市で開催します「がん征圧全国大会」で表彰します。

【朝日がん大賞】

「がん登録の基盤整備と登録データの利用促進によるがん対策への貢献」 特定非営利活動法人 地域がん登録全国協議会

（理事長：田中英夫・愛知県がんセンター研究所疫学・予防部部長）

都道府県の任意事業として行われてきた地域がん登録事業の基盤整備などを目的に、都道府県のがん登録担当者有志によって1992年に設立され、都道府県のがん登録室間の交流・研究、研修、広報事業を通じて、がん登録事業の技術支援、人材育成などに努めてきた。学術集会や研修会などを開催し、我が国のがん登録ルールの設定や個人情報保護の具体的方策を提示し、都道府県のがん登録によるがん罹患率、死亡率、生存率等の情報の標準化と質の向上に大きく寄与した。2013年12月に成立した「がん登録等の推進に関する法律」の原案作成では協議会が積極的に関係者への説明にあたり、本法律成立において重要な役割を果たした。法制化後もがん登録データの利活用の啓発など、より有効ながん対策推進に大きく貢献している。今回の受賞は、我が国におけるがん登録の基盤を整備し、がん登録によるがん対策の新時代を切り開いた功績を讃えるものである。

日本対がん協会賞と朝日がん大賞

日本対がん協会賞は、長年にわたり、がん征圧活動に尽力され、功績を挙げられた方々を顕彰するため、1968年に設けた。

朝日がん大賞は、日本対がん協会賞の特別賞として朝日新聞社の協力で2001年に創設した。

- ①がんの予防や検診のあり方等の研究で、将来期待できる成果を挙げた個人や団体。
- ②画期的な検診機器の開発に関して功績を挙げた個人や団体。
- ③患者・治癒者を支える研究や活動などで顕著な貢献をした個人や団体などを対象としている。

【日本対がん協会賞 個人の部】5人

◇木村 昭二郎（きむら・しょうじろう）74歳 広島県地域保健医療推進機構参与

1997年に結核予防会広島県支部（現・広島県地域保健医療推進機構）の肺がん専門委員会・読影員会委員に就任し、地域住民、職域における肺がん読影に従事し、撮影・読影の指導・助言に尽力。2007年からは、広島県地域保健医療推進機構の胃がん・大腸がん・乳がんの専門委員会、マンモグラフィー読影員会委員として、撮影技術や読影精度の向上に関する指導を主導するなど、長年にわたり、各種がん検診の精度管理向上に大きく貢献した。

◇黒木 尚之（くろき・なおゆき）68歳 黒木医院院長

1990年から2002年にかけて、岐阜県が実施する検診車による子宮頸がん集団検診の検診医師として岐阜県下呂市の子宮がん対策に尽力。黒木医院院長となった2005年からは、下呂市内では下呂温泉病院以外に受診可能な唯一の診療所の産婦人科医として、個別検診を推進。超音波検診を併用し、子宮がん及びその他の疾患の早期発見・早期治療に取り組むなど、中山間地域での子宮がん対策に大きく貢献した。

◇関口 利和（せきぐち・としかず）81歳 関口医院院長

1963年から群馬県の胃集団検診のメンバーとして活躍し、現在も群馬県健康づくり財団で、胃がん検診専門委員会委員長として同財団の胃がん検診を指導している。前橋医師会に胃がんの個別検診を導入し、発展させたほか、胃がん検診受診率が低下していた太田市で1999年に胃がんの個別検診の実施を太田市医師会に依頼し、全国的にも早くから胃内視鏡検診を導入し、その後の太田市の受診率、胃がん発見率の上昇にも寄与した。

◇土亀 直俊（つちがめ・ただとし）69歳 熊本県総合保健センター所長

熊本大学病院放射線科で、放射線科学の研究に従事し、研究はもとより指導者として多くの医学生や技師を世に送り出し、県内の胃がんの集団検診や精密検査の精度向上に取り組んできた。2004年に熊本県総合保健センター所長に就任後は、「組織・細胞診判定委員会」「肺がん読影委員会」「マンモグラフィー読影委員会」を設置し、がん検診事業の精度管理の徹底やがん征圧の普及啓発にも大きく貢献した。

◇西田 道弘（にしだ・みちひろ）81歳 兵庫県健康財団保健検診センター顧問

長年にわたり、兵庫県立がんセンターや兵庫県立塚口病院などでがんの研究、予防、治療に携わった。1971年に胃がん検診の充実と精度向上を目的に組織された「兵庫県胃集団検診連絡協議会」の設立に尽力し、兵庫県内の検診機関の取りまとめと精度向上に大きな役割を果たした。兵庫県成人病検診管理指導協議会胃がん部会委員として検診機関の指導や読影医の養成にも尽力、胃がん検診の精度向上に大きく貢献した。

【日本対がん協会賞 団体の部】1団体

◇NPO法人埼玉乳がん臨床研究グループ（黒住昌史＝くろずみ・まさふみ＝理事長）

埼玉県から乳がんで苦しむ人をなくそうと、埼玉県内の乳がん専門の医師の有志がグループを作り、一般向けの乳がんに関するフォーラムや無料相談会など、乳がんの啓発活動や、多施設臨床研究などの活動を1999年から続けている。2006年にはNPO法人となり、乳がん市民フォーラムや乳がん無料相談に加え、講演DVDの無料貸し出し、最新の乳がん情報の小冊子の発刊（無料）などを通して、乳がんの啓発に貢献した。

（順不同、敬称略、年齢は9月1日現在）

報道につきましては例年通り、新聞など活字メディアは9月1日付朝刊以降、放送・インターネットは同日午前6時以降でお願いします。

本件に関するお問い合わせは下記にお願いします

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル(マリオン)13階
公益財団法人 日本対がん協会（本橋・本多） TEL:03-5218-4771(代) FAX:03-5222-6700